

ユニークな
地質系博物館
(10)

手作りの「丹波マンガン記念館」

井本 伸 広¹⁾

丹波帯といえば、かつて良質の二酸化マンガン鉱を産出したことで知られており、試掘・採掘あわせて約300鉱山が記録されている。しかしそのほとんどが、鉱員数人の零細な鉱山であった。太平洋戦争末期と1950年代に最盛期を迎えたが、1970年代からは輸入マンガン鉱におされて閉山が相次ぎ、1983年には弓山鉱山を最後に、丹波帯のマンガン鉱山は全て幕を閉じた。ここまで踏張った鉱山師は、李貞鎬(リジョンホ)氏と二人の子息であった。



写真1 丹波マンガン記念館
事務棟, 2階が集会や宿泊に使用される。



写真2 明治・大正期の「手掘り」。

李さんは1932年生まれの在日朝鮮人二世で、35年間もマンガンの採掘に携わってきたあげく、現在は重度のじん肺症に苦しんでいる。「丹波のマンガン鉱山では、たくさんの朝鮮人が苛酷な労働を強いられてきた。だれかがその証しを残さないと、自分たちの歴史は永遠に消えてしまう」とおもいたち、構想2年の後、1989年5月1日に「丹波マンガン記念館」を開館した(写真1)。

場所は弓山鉱山に隣接する新大谷鉱山で、坑道300メートルを整備し、約20体のマネキンが、ゲンノウ振りや手掘り、削岩機での掘削、支柱立てやガンガラ・木橋・トロッコによる運搬など、坑内労働の様子を再現している(写真2)。どのマネキンも西洋風の顔立ちをしているのは、経費節減のため、既成のマネキンを、奥さんの任静子(インチョンジャ)さんと若いお嫁さんたちが改造したためで、手作りの温かさとともに苦心の程が感じられる。

手作りといえば、鉱石や鉱山用具を展示している資料館の建物や飯場(写真3)も、べた車を引く牛

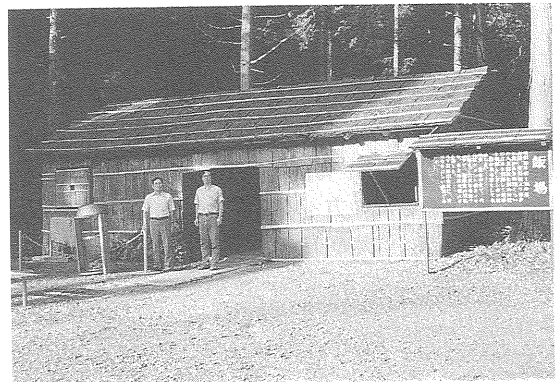


写真3 復元された飯場。内部には台所・寝室・風呂場・立ったまま食事をしている様子などが示されている。(写真提供:佐藤興平氏)

1) 京都教育大学教育学部: 〒612 京都市伏見区深草藤森町1番地

キーワード: 丹波, マンガン, 記念館, 新大谷鉱山

(写真4)までもが、全て李さん一家の共同作業によるものである。つねづね「鉱山は技術の百貨店だ」といっていた李さんの面目躍如たるものがある。

記念館設立の趣意書には、1)マンガン鉱床研究の拠点作り、2)マンガン開発と朝鮮人労働者との関わりを示す資料の収集と呈示、3)豊かな自然に囲まれた憩いの場の提供、の三つの役割が挙げられている。

1)については、資料館に、マンガン鉱物収集家として知られる武村道雄氏(京都市立近衛中学校教諭)の460点を越すコレクションが寄託・展示されており(写真5)、また愛媛大学や広島大学、京都教育大学などの学生がここを足場に、地質研究を進めている。1992年のIGCでは二つのグループが巡検で立ち寄り、京都国際会館では記念館のブースが関心を集めた。

2)の点では、有志の協力により、かつての鉱山労働者からの聞き取りとビデオの製作が進められており、「ワシらは鉱山で生きてきた」と題する冊子

も出版されている。地元紙はもとより、ニューヨークタイムズなどの国際紙も取材に訪れ、テレビも再三取り上げている。

旧坑を巡る、延長1600メートルの遊歩道があり、林間でバーベキューを楽しむグループもあとを断たない。記念館への途中には、ジュラ紀泥岩や岩脈・断層を示す説明板(写真6)も立てられており、楽しみながら学べる工夫もされている。

昨年で開館3周年を迎え、キノコやアリジゴクとカマキリ、しのぶ石、丹波山地の生い立ちなどについて、6回の記念講演会が開かれ、地域文化の振興にも役立つとする努力が続けられている。近いうちにトロッコ軌道の復元、野外ホールの建設などにも取り組みたいと、李さんは意気軒昂である。

北山杉の木立をぬって走る国道162号に沿って、JRバス京都・鶴ヶ岡線で約1.5時間、下中(しもなか)で下車し、徒歩15分で記念館に達する。



写真4 ベタ車を引く発砲スチロールを彫刻した牛。

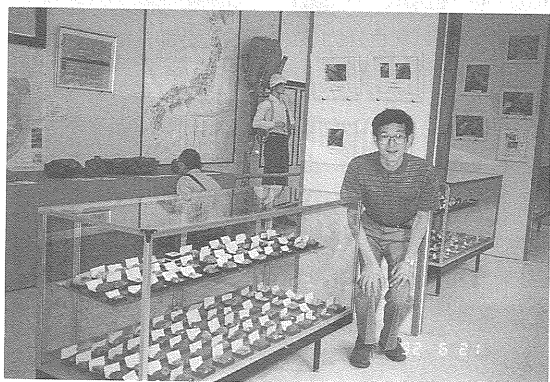


写真5 資料館内部とマンガン鉱物標本。人物は竹村道雄氏(写真撮影：故益富寿之助氏)

開館時間：10:30-17:00

休館日：火曜日および12月15日～2月28日

入館料：一般800円、小・中学生500円、
小人(3才以上)300円

問い合わせ：〒601-05 京都府北桑田郡京北町字下中
白頭鉱業(有)丹波マンガン記念館
Tel. 07715-4-0046, 0307(夜間)

IMOTO Nobuhiro (1993): Tanba Manganese Memorial Hall, an independent museum.

〈受付：1993年2月16日〉



写真6 断層の路頭と説明板。